



昨今の窯跡盗掘

有田町は今から約400年もの昔、朝鮮人陶工の李參平（金ヶ江三兵衛）らによって、磁器の原料が発見されたことにより、磁器が創始されたことは、みなさん周知のことと思います。

佐賀県内では現在陶器や磁器の窯跡が300か所以上確認されており、そのうち有田町内には、66か所あります。この数は遺跡単位としての窯跡数であり、窯本体は140基以上に上るものと思われます。この窯跡から出土する陶片は、昔から多くの盗掘の被害にあってきました。盗掘については、これまで県内の各市町村がそれぞれ被害を確認し、独自に対策を図ってきましたが、佐賀県全体で例年20件以上の盗掘被害にあっていました。平成20年ごろより正確な統計を取り、さまざまな対策を講じた結果、平成25年度には数件の被害にまで減少しています。そして、ようやく平成29年度には、県内での被害が0になったものの、再び平成30年度に有田町内で2件発生しました。こうした盗掘の根絶を目指して近年では、行政と警察が情報を共有し、対策を講じるための「窯跡盗掘対策合同会議」を実施し、定期的に意見交換等を行っています。

ここは埋蔵文化財の包蔵地です。
勝手に掘ったり、陶片等を持ち
帰ったりすると処罰されます。
大切な文化財を皆で守りましょう。

警告看板

今年の6月には、有田町で第5回目となる合同会議を行い、文化財パトロールの状況や警告看板などの設置といった、有田町が実施している対策について意見交換を行い、実際に窯跡の現地を訪れ視察も行いました。

近年の有田町内における盗掘で、特に被害の大きかったのは、平成22

年の小物成窯跡^{こもんなりやまごや}、平成26年の原明窯跡^{はらあけ}、そして平成30年の山小屋窯跡^{やまごや}などです。いずれも大規模に掘り荒らされており、見るも無残な姿でした。盗掘は文化財保護法に違反する犯罪行為というだけでなく、有田町の歴史、町民、ひいては国民の宝をないがしろにする行為です。今後、繰り返される盗掘を防ぐためには町民の皆さんにご協力いただくことが、文化財を守る一番の方法です。

（伊達 惇一郎）



平成22年度 小物成窯跡被害状況



平成26年度 原明窯跡被害状況

皿 山

季刊

No.123

秋

2019

有田町歴史民俗資料館・館報

「歴史の川ざらい」ベンジャラを探そう!を開催しました

8月2日(金)、今年も13人の子どもたちが参加し、夏休みの恒例企画の一つである「歴史の川ざらい」を白川川で開催しました。窯業の町として約400年の歴史を持つ有田の川には、周辺の窯跡から流れ込んだり捨てられたりした江戸時代からの陶片(ベンジャラ)が、川底に無数に散在しています。こうした陶片を自分で探し発見することにより、この有田ならではの光景に子供たちがじかに触れ、将来に渡ってふるさとに愛着と誇りを持ってもらおうという企画です。

最初に、屋内で基礎知識を事前学習し、どのような陶片を探すのかを頭に入れた上で、実際に白川川へと

移動しました。時代が古いほど高得点のポイント制とし、友達と競争したり相談したり、また、保護者の方々も一緒になって、みな真剣な表情で陶片探しを楽しみました。陶片は順番に学芸員が鑑定し、今回は総合得点で1位を獲得したのは4年生の男の子でした。

子どもたちが見つけた陶片は、貴重な文化財であるため持ち帰ることができません。その代わりに、後日、見つけた陶片の中から一人1点ずつを選んで、元の形や制作年代等を記した解説シートを作成して届けています。また、この陶片とシートは、秋の資料館の企画展の際に展示して一般公開する予定です。



事前学習をする子どもたち



ベンジャラ探し中

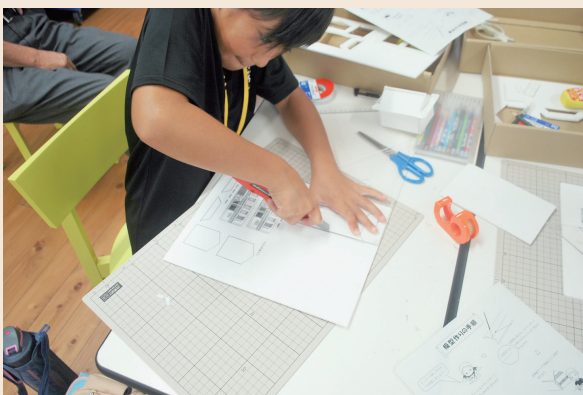
町屋模型作り教室を開催しました

8月19日(月)と20日(火)の2日間、有田小学校のランチルームをお借りして、夏休み子ども向け企画の第二弾、「町屋模型作り教室」を開催しました。残念ながら、事前に数名のキャンセルが出てしまい、参加者は8名でしたが、みんなで楽しく取り組むことができました。

最初に、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている有田内山について文化財課の担当職員より事前説明を行い、本来ならば、その後は保存地区内にある国指定重要文化財の旧田代家西洋館を見学する予定

でしたが、今回は雨のために取りやめました。

製作する町屋の模型は、有田内山に実在する建物を200分の1に縮小したもので、例年ご協力いただいているれきみん応援団の皆さんとともに、今年は博物館実習の大学生も加わり、1日目にいくつか建物の模型を製作し、2日目にはそれらを使って町並みを作りました。模型の製作を通じて、ふるさとにある貴重な文化財に関心を持ってもらえればと思います。



うまくきれるかな?



完成した町並とともにパチリ

博物館実習生がやってきました！

8月19日(月)～23日(金)の5日間、愛知県名古屋市所在の名城大学の学生1名を、博物館実習生として受け入れました。意外と知られていませんが、博物館学芸員は教員などと同じ国家資格で、資格認定試験や審査により取得する方法もありますが、大学で国が定める科目の単位を修得する方法が一般的です。博物館実習は、大学の学芸員養成講座で学んだ内容を、博物館等の施設で実践することで基礎的な知識や技術等を学び、働く心構えを育てることを目的としています。

当館は、例年中学生の職場体験や高校生のインターンシップなどは受け入れていましたが、博物館実習生



子どもたちと一緒に模型を作る実習生

は16年ぶりでした。そこで、町の文化財課が所管する当館の特徴を活かして、単に館の活動にとどまらず、歴史資料の取り扱い方や展示計画の作成及び展示シミュレーションのほか、夏休みの子どものための町屋模型作り教室の運営、考古資料の整理作業など、幅広い分野に携わっていただきました。

今回の実習が実りある体験となり、ぜひ未来の学芸員として活躍していただきたいと思います。

実習生のコメント

8月19日から博物館実習で、有田町歴史民俗資料館にお世話になりました。実習初日から町屋模型作り教室がありバタバタしている中でのスタートになりました。現場で学芸員さんの仕事にじかに接することができ、実際の仕事も体験をさせていただきました。

私は有田で育ちましたが、離れてから4年になります。大学の専攻過程では学ぶことのできない有田の歴史を改めて学び、さまざまな実務を経験することによって、学芸員の仕事がどれほど大変で、どんなにやりがいがあることなのかを身をもって感じられる1週間になりました。この経験を忘れることなく、今後の活動につなげていけたらと思います。

令和元年度企画展「わがまちアリタの平成史」開催します！

今年、30年以上続いた「平成」という一つの時代が幕を下ろしました。新しい「令和」という時代を迎え、改めて平成を振り返りながら、「平成の有田」とはどのような時代だったのか、考察する企画展を開催したいと思います。

思い起こすと平成の有田にはさまざまな出来事がありました。平成3年に、佐賀県で初の重要伝統的建造物群保存地区として有田内山地区が選定されました。平成8年には「世界 焔の博覧会」が開幕し、世界中の人々が有田の地を訪れ、また平成2年～11年に行われていた「田植唄アジアフェスティバル」にも象徴されるように、有田は国際化の動きを見せ始めます。

平成初期の有田が目指したまちづくりが、平成18年の「平成の大合併」を経て、平成後半にいかに花開いたかを辿ります。

会 期：令和元年11月9日(土)～12月15日(日)
場 所：有田町泉山 有田町歴史民俗資料館東館
入 館 料：無料
同時開催：「第8回歴史の川ざらい」成果展

★探しています！平成のお宝！★

有田町歴史民俗資料館では、秋の企画展に出品するため、町民の方が持っている平成の資料を募集しています。心当たりの方は、下記までご連絡ください。

◎募集内容：

- ・平成のイベント（世界焔の博覧会や田植唄アジアフェスティバル、とっこ積みフェスタなど）を撮影した映像
- ・イベント等での記念グッズ
- ・旧有田町・旧西有田町の町章が入っている品物
- ・そのほか「平成」を象徴すると思われる資料など

◎連絡先：有田町歴史民俗資料館
TEL 0955-43-2678

※ご不明な点はお問い合わせください。

※借用の際は、ご都合に合わせてお伺いします。資料は一旦借用し、企画展終了後に返却させていただきます。



太宰府市より斎藤秋圃の調査に来町

7月24日(木)、25日(金)の両日、福岡県太宰府市の委嘱を受け、斎藤秋圃をはじめとする筑前の町絵師調査と研究を行っている井形栄子さんを代表とする一行が、有田町に調査に来られました。この斎藤秋圃に関しては、館報110号、120号で詳しく紹介していますが、江戸時代後期に活躍した筑前・秋月藩御用絵師でした。

今回は、有田町内に所在が確認されている、当館所蔵の「四季耕作図」と「群鹿図」屏風などのほか、陶山神社の拝殿に掲げられている絵馬「油坊主」と、桂雲寺に所蔵されている「寒山拾徳」の軸装3幅について、肉眼による調査と写真撮影をされました。当館からも学芸員が同行させていただき、美術の専門家による絵画資料の調査方法などを学ばせていただきました。

秋圃は、安政6年(1859)に亡くなっており、有田にはその少し前の嘉永年間(1848～54)の作品が残されていることから、有田は晩年の秋圃の作画を考える上で非常に重要な場所になる、とのことで、今後の研究を楽しみにしたいと思います。



群鹿図屏風の計測の様子



西中生徒、夏休みに来館



取材する中学生

8月21日(木)、西有田中学校1年生の生徒たちが連続して資料館に来館しました。学校の授業の一環で、いろんな「有田のこと」について、町内のさまざまな所に、事前に自分たちで問い合わせを行って取材に行

き、調査をしているとのことでした。当館には「黒曜石について」、「唐船城について」、「方言について」、「昔の遊びについて」を調べたい4つのグループが来館しました。それぞれの取材に対し、西館に保管している黒曜石の実物を見せたり、唐船城800年記念事業で作成した冊子などを紹介して説明を行いました。

自分たちで興味を持って調べた有田のことは、きっと郷土を愛する心を育む一助になると思います。



まちなか案内ジュニア隊 研修を行いました。

8月23日(金)に、有田観光協会が実施する「2019年度 有田まちなか案内ジュニア隊」の開校式および研修が実施され、当館の学芸員が講師として泉山磁石場と、有田の大イチョウ(大公孫樹)について、子供たちに講義を行いました。

有田まちなか案内ジュニア隊は、子どもたちが夏休みの間に町内の観光名所について研修を受け、自分で案内文章を作成し、「秋の有田陶磁器まつり」の期間中に、一般のお客さまに対して観光案内をするというもので、平成28年の有田焼創業400年の年から始まり、今年で4回目になります。去年は6人の子供たちが3日間で900人も案内し、大好評でした。

今回の観光名所としてピックアップされた泉山磁石場と有田の大イチョウは、国の史跡および天然記念物に指定されている文化財です。今年も7人の子供たちが参加し、講師の話に非常に熱心に耳を傾けていました。これから秋までの間に、大人顔負けのガイドとなることを期待しています。



説明を聞く子どもたち

季刊『皿山』

通巻123号(令和元年9月1日)

編集・発行 有田町歴史民俗資料館

〒844-0001 佐賀県西松浦郡有田町泉山一丁目4-1

☎0955-43-2678 FAX0955-43-4185

URL: <http://www.town.arita.lg.jp/main/169.html>